

食行動データ収集・蓄積・分析システム — 消費者の買物から調理・食事までの実態を把握できる —

技術の特徴

・消費者の農産物(食品)の購入・調理・食事データ(食行動データ)をWeb上で収集するとともに、定量データ分析及び定性データ分析を行うシステムである。農産物消費の特徴の把握や消費拡大方法の提案などに活用できる。

研究の内容

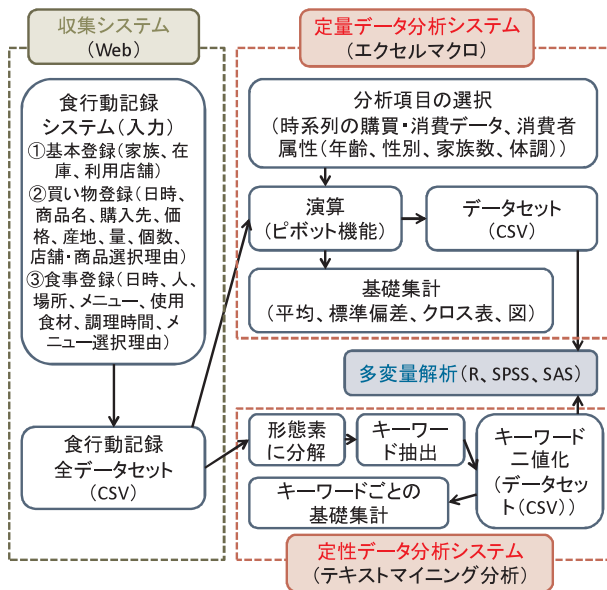


図1 入力内容と構成

The screenshot shows the '食事記録' (Meal Record) input screen. It includes fields for '食事日' (Meal Date: 2012/12/25), '食事時刻' (Meal Time: 午前 7時00分), '食事場所' (Meal Location: 自宅), 'だれが' (Who: 農研A子, 農研B夫, 親族, 友人), '食形態' (Meal Type: 朝食), '調理者' (Cook: 農研A子, 農研B夫, 親族, 友人), and 'メニュー' (Menu). The menu section has a table with columns for '大分類' (Main Category), '小分類' (Sub-category), '名称' (Name), and '食べた(食べる)人' (Who ate). Below this, there are options for '調理時間' (Cooking Time) and '使用食材' (Ingredients Used), including a field for '消費分量' (Consumption Amount) with a dropdown for '野際' (0/10/1) and radio buttons for '残70%', '50%', '100%', and '残り全部'.

図2 収集システムの入力画面

[データ収集システム]

消費者モニターは、家族構成等の基本登録の後、買い物(購入先、価格等商品属性、選択理由等)と食事(メニュー、使用食材、メニュー選択理由等)の内容を入力する(図1、図2)。購入食材は在庫登録され、食事ごとに使用食材を入力すると在庫量も減少するため、食材の利用過程がわかる。

[分析システム]

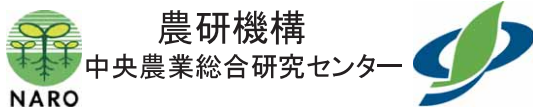
定量データ分析システムでは、消費者属性や購買・食事データから分析したい項目を選択し、マイクロソフト社エクセルのピボット機能によりクロス集計等の基礎集計を行う。定性データ分析システムでは、食品の購買理由やメニュー選択理由などの文章データを形態素へ分解するとともにキーワードの抽出・二値化を行い、キーワードの出現頻度等の基礎集計を行う。また、いずれの分析システムでもデータセット(CSV形式)が作成され、高度な分析(多変量解析)に利用できる。

今後の展開

- ・農産物の食行動(購買・調理・摂取)に影響を与えている要因の解明
「カットフルーツの利用形態の特徴と類型の解明」

参 考

- ・山本淳子, 食行動記録システムとその活用方法, 農業経営通信, No.257(2013.)



NARO

農研機構

中央農業総合研究センター

代表研究者: 大浦裕二

所 属: 農業経営研究領域